

福井市八幡山におけるウラクロシジミ *Iratsume orsedice* (Butler) の採集記録

吉田理玖・吉田竜大*

A record of *Iratsume orsedice* (Butler) in Mt. Hachiman, Fukui City, Fukui Prefecture

Riku YOSHIDA and Tatsuhiko YOSHIDA*

(要旨) 福井市八幡山で2022年6月18日にウラクロシジミ1♂を採集した。

キーワード：ウラクロシジミ, 八幡山, 福井市

ウラクロシジミ *Iratsume orsedice* (Butler) はシジミチョウ科に属する小型のチョウである。本種は溪谷沿いの落葉広葉種林や、地域によっては丘陵地～低山地の照葉樹林にも生息し、幼虫はマンサク *Hamamelis japonica* やマルバマンサク *Hamamelis japonica* f. *obtusata* を食草としている。国内では、北海道（渡島半島南部）、本州、四国、九州、南西諸島に分布しているが、生息地は局所的である（日本チョウ類保全協会, 2019）。

福井県内では、古くは1933年に敦賀市の旧敦賀郡東浦村での採集記録があり（福井県博物学会, 1938）、比較的近年では1993年に大野市南六呂師、1992年に美浜町新新庄、大野市大谷などで採集記録が残っている（下野谷・浅野, 1998）。

福井市八幡山では2016年～2017年の調査により37種のチョウが記録されている（梅村, 2017）が、ウラクロシジミの記録はなく、その他の文献においても八幡山での過去の記録は見当たらない。筆者らは、これまで記録のなかった福井市八幡山において本種を採集したので、下記の通り報告する。

ウラクロシジミ *Iratsume orsedice* (Butler)

福井県福井市八幡山, 1♂, 18-VI-2022, 吉田理玖採集・保管 (図1, 2)

本種を採集したのは、八幡山展望台の手前の車道脇の地点である。13時頃に道路を歩いていたところ、大きなミズキ *Cornus controversa* の木の比較的低い位置の枝葉上に静止していた本種を見つけて捕虫網で採集した。

本種は森林伐採や植林などの影響で全国的に見ると生息地は減少傾向にあるとされるが（日本チョウ類保全協会, 2019）、市街地に囲まれた八幡山で本種が定

着しているとすれば、貴重な生息地といえる。街中に残された場所における本種の生息状況を明らかにするため、今後の調査の継続が必要である。

謝辞

本稿の投稿にあたり、様々な便宜を図っていただいた福井市自然史博物館の梅村信哉氏に御礼申し上げます。



図1. 八幡山で見つかったウラクロシジミ
(福井市八幡山, 2022-VI-18, 吉田竜大撮影)



図2. 八幡山で採集したウラクロシジミの♂
(福井市八幡山, 2022-VI-18, 吉田理玖採集・保管)

*福井市自然史博物館友の会 〒918-8006 福井市足羽上町147

*Friends Membership of Fukui City Museum of Natural History, 147 Asuwakami-cho, Fukui City, Fukui 918-8006, Japan

引用文献

- 福井縣博物學會編, 1938, 原色福井縣昆蟲圖譜. 福井縣博物學會, 42p+72pls.
- 日本チョウ類保全協会編. 2019. フィールドガイド増補改訂版 日本のチョウ. 誠文堂新光社, 343p.
- 下野谷豊一・浅野裕治, 1998, チョウ目 LEPIDOPTERA, 福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編, 福井県昆虫目録 (第2版), 福井県県民生活部自然保護課, 441-556.
- 梅村信哉, 2017, 足羽三山におけるチョウ類群集の構造の比較と環境評価. 福井市自然史博物館研究報告, (64), 55-62.